

じんけんふれあいシリーズ⑥  
ともに生きる喜びを実感できる  
地域社会の実現

平成25年度人権標語優秀作品  
手をつなぎ いじめと差別 とうせんぼ  
大平 昌英 さん

運動会練習やスポーツクラブなどで、熱中症にならないように水分補給が大切だということ、よく知られています。しかし、数十年前は水をあまり飲ませないで運動させていた指導者がいました。彼らは、この指導を正しいと思っていました。だが、正しい情報を知ることによって改められました。

部落差別解消にも、誤りを正すところが必要です。差別意識を持った人は、偏見を言い伝えていきます。部落差別はしてはいけないと思っている人でさえ、自分や家族が同じような差別や偏見を受けるようになると思ひ込むと差別者になる人も出てきます。このような差別言動を指摘し差別を解消する組織として生まれたのが、水平社です。今回は、部落史をもとに水平社についてまとめてみます。

### 1 全国水平社ができる きっかけは

1871年に政府は解放令を出しましたが、同和行政・同和教育を

行わなかったため、差別は激しくなりました。1879(明治12)年ごろに自由民権運動がさかんになると自らの力で差別解消をつかむため、多くの同和地区の人々は参加していきました。九州で自由民権思想の影響を受けた部落の人々が「自らの手によって国民当然の権利を復する」という考えのもと、全国初の「復権同盟」を結成しました。この時、日田の毛利源兵衛と吉富新蔵も発起人に加わっています。この計画は実現しないまま終わりましたが、部落差別解消への想いは引き継がれていきます。日露戦争(1904年)後、行政は部落の人たちの社会改革運動が大きくなることをおそれ、部落改善事業に取り組み始めます。政府の政策は、1918(大正7)年の米騒動のころから、部落外との融和を目指す融和政策へと転換していきます。同情的な差別撤廃論がすすむ中で、杵築市出身で早稲田大学の講師であった佐野学は、1921年7月に「特殊部落解放論」を発表します。「被差別部落の人たちが集団をつくり、不当な社会的地位の廃止を要求すれば効果は大きい」という

考え方は、部落の人たちに大きな影響をあたえます。

### 2 全国水平社とは

佐野の考えは、部落の人たちを動かしました。誤った差別意識を残したままの同情的な差別撤廃論を排除して自発的な集団運動を積極的に進めようとする勢いが強まりました。そして、1922(大正11)年3月3日全国水平社創立大会が京都で開かれました。ここで、日本で最初の人権宣言である「水平社宣言」が出されています。宣言には、身勝手な政治によって作られた犠牲者であること、同情や憐れみを持つて接することは侮辱であること、祖先の尊い闘いの歴史を知り団結して本当に人間として生きる時代を作り出すことなどが述べられています。(市報つくみ2013年3月号に、水平社宣言の現代語訳を掲載)この大会で「吾々に対してエタ及び特殊部落民等の言動によって侮辱の意志を表示したる時は、徹底的糾弾を為す」という決議もしています。

### 3 各県に水平社ができる

全国水平社ができてすぐの3月25日に別府のが浜で警察官数十名による部落の家屋を焼打ちする事件が起きています。警察官たちは、皇族が特別列車から見ると「弓掛松」付近をきれいにするという理由で付けています。この事件をうけて、真相を訴える活動と各地の水平社設立の動きが起きました。その結果、1923年に全九州水平社ができています。大分県では、1924(大正13)年3月30日、別府の劇場の豊玉館で大分県水平社の結成大会が開かれています。部落差別を許さない組織が、各地に出来ることで、部落差別をなくす動きは広がっていきます。

注 特殊部落：明治後期に出された部落の呼び方。被差別部落の先祖を古代朝鮮半島からの渡来人や蝦夷などとする誤った歴史認識にもとづいているので、差別呼称になります。